

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190500389		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンターもみじ台(1Fふくじゅそう)		
所在地	北海道札幌市厚別区もみじ台北6丁目1番8号		
自己評価作成日	平成24年2月29日	評価結果市町村受付日	平成24年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着と言われていた中で地域差があり、なかなか地域の方々との交流を図ることが困難ではありますが、地域包括支援センターの協力を得ながら地域住民にご理解・ご協力をお願いしています。
ご入居者様にはここで最期を迎えると思えるケアを医療のご協力を得て積極的に取り組んでいます。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0190500389&SCD=320
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年3月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<本人と共に過ごし支えあう関係づくり>
2ユニット(18名)の共通した職員同士の交流で、本人が楽しく暮らせるように筋力低下の予防の為に歩行訓練や風船バレー等のレクリエーションで職員と共に過ごしながら支えていく関係づくりに取り組んでいる。また、日常生活や行事参加の様子を家族会でDVDの映像で紹介したり「ほほえみもみじ台通信」で情報提供するなど家族と本人の関係を継続するよう努めている。
<運営推進会議を活かした取り組み>
運営推進会議には、地元消防団や民生委員、包括支援センター職員等が参加し、事業所の取り組みや意見交換が行われていると共に民生委員の協力を得て、津軽三味線や大正琴などのボランティアの受け入れや災害(火災、水害、地震等)時の対応について地域との協力体制構築の必要性が話し合われている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をつくり、朝礼・夕礼時やミーティングの時に話し合い、実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくりあげ、朝礼・夕礼時やミーティングを通じて話し合い、その実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティア(大正琴等)の受け入れや地域で行われる行事に少しずつ参加し、交流を深めている。	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、歌謡や大正琴等の地域ボランティアの受け入れや地域の陶芸教室や芸能大会に参加するなど地元の人々との交流・連携に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隔月に行われる運営推進会議の委員の中に地域の方が参加している為、事業所の情報等を地域の方に伝わるようアナウンスしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の会議に区の方、地域の方、ご家族、入居者様、職員が参加し、現状等を具体的に話し合いサービスの向上に活かしている。	運営推進会議を年6回を目安に開催し、利用状況や日常生活の様子の報告や地域との連携等具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者や包括支援センターとの連携をとるよう努めている。	市・区担当者及び包括支援センター職員と運営推進会議や日常業務の報告等を通じて連携を深めるよう努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム会議、研修等で知識・情報の共有をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を身体拘束廃止や虐待防止の法人研修会や内部研修で管理者及び職員の共有が行われ、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当社のマニュアルを活用し、スタッフ研修等で周知し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自社で行っているスタッフ研修で当社のマニュアルから学び、それらを活用できるように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・改定の際には、必ずご家族に不安や疑問点を聞き、納得して頂けるよう説明している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時にご意見・ご要望を聞いたり、年1回当社独自のアンケート(顧客満足度アンケート)を実施して運営に反映させている。	法人独自のアンケートの実施や家族・来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付箱の設置や関係機関の申し出先を明示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中や毎月のホーム会議等でスタッフの意見や提案を聞き、運営に反映できるよう努めている。	ホーム会議や日常業務を通じて意見や要望、提案を聞く機会を設け、運営に反映できるように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組織が大きく、代表者は個々の職員の状況を把握し切れていない可能性がある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	組織が大きく、代表者は個々の職員の状況を把握し切れていない可能性がある。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の管理者会議で幾らかの交流はあるが、サービスの質を向上させるまでにはなっていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分なアセスメントを行い、本人の要望を聞き、汲み取るように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時や連絡時に情報収集に努め、ご家族等の要望や意向を汲み取るように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	来訪時等に情報収集に努め、ご本人・ご家族等が「今」必要としている事を汲み取るように努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常生活の中で日々行われている家事等に協力しあえるよう働きかけている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に日々の生活状況を伝え、出来る限り介入して頂けるよう要請したり、働きかけている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話の中から情報の収集をして、関係が途切れることのないように支援しています。	センター方式を活用して、馴染みの人や場所との関係を把握し、それらの関係が途切れないように支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士での共同作業を取り入れたり、難聴の方は孤立しがちなため、スタッフが介入し他者との関わりが持てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族からの連絡や相談に乗るなど関係性を大切にしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りご本人の希望・意向に沿えるよう、日々の会話から汲み取るようにし、ご家族からも情報を得るようにしている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、散歩や買い物等本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話から情報を得たり、ご家族や親族・友人などからも情報を得るように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	したい事・したくない事、出来る事・出来ない事の見極めをするよう努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやモニタリングを通して全スタッフや担当スタッフがアイデアを出し、介護計画に反映している。	センター方式を活用して、生活歴や趣味・嗜好を把握し、本人、家族の意見や要望を介護計画に反映している。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや観察の様子を申し送り時等に話し、介護記録等に記入するよう促し、情報を共有しながら介護計画の見直しに活かすよう努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	センター方式を活用しながら情報収集を行い、一人ひとりのニーズに対応できるよう取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医となっている。また、医療連携体制があり、適切な医療が受けられるように支援している。	医師の往診や訪問看護、職員との連携で適切な医療を受けられるように支援している。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活で気付いた事や情報を訪問看護師に伝え、適切な看護を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはまめに足を運び、病院関係者に出来る限りの情報を伝達し、また情報を得るように努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は早期にご家族・医療連携医と話し合い、連携を取りながら方針を共有するように取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族の意向を踏まえ、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習会に参加したり、ホーム会議等でシミュレーションをする等、基本的な訓練を行っているが、定期的な訓練は行っていない。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実際の避難訓練は年2回実施している。極力、ご近所へのアナウンスを行い、地域との関係性を築くよう努めている。スプリンクラーや通報装置があり、定期点検もされている。	年2回消防署の協力を得て、火災避難訓練の実施が行われ、スプリンクラー及び通報装置、火災自動報知器等の設備の定期点検も行われ、緊急時の体制を整えている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ研修での接遇マナーで学び実践するようにつとめている。また、人生の大先輩ですので言葉使いや対応には気を配っている。	スタッフ研修や接遇マナー研修等を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人が自己決定しやすい言葉掛けを心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人一人ひとりのペースを大切に、希望に沿って支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を確認しながらおしゃれや着替の準備の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に声掛けし、食事の準備や後片付け等を行っている。	一人ひとりの嗜好の把握や力を活かしながら職員と一緒に食事の準備や後片付け等を行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量をその都度記録し、1日を通して確保出来るよう、体調・状態などに応じた支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き後は必ず口腔内を確認し、磨き残しがないかを確認する。状況によっては歯科に受診するなどしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックで排泄のパターンを把握し、オムツは必要最低限とし、トイレで排泄できるよう支援している。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレで排泄できるように自立にむけた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に気を付け、適度な運動への働きかけを行っている。改善が見られない時には医師に相談し、整腸剤等で排便コントロールを行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の日程や時間を週2回程度は確保しながらスタッフの一存で決めず、ご本人の意向にも合わせて対応している。また、拒否の強い入居者には声掛け等を工夫し支援している。	拒否の強い本人に、声掛け等の工夫をしながら支援している。また、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に合わせて週2回の入浴を目安に支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠の確保のため、日中には極力動いて頂くように意識している。また、日中でも休息が必要な方には長時間の臥床とならないよう配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬を理解し、必ず確認している。また、臨時薬や内服薬に変更があった場合には、変化に気付けるように周知している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話等を通しご本人の興味のあるものを探し、ご本人の意向に沿って支援するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	積雪や悪天候等でなければ、ご本人の希望に沿って散歩や近隣のスーパーでの買い物等に出掛けられるように支援している。	一人ひとりのその日の希望にそって、散歩や近隣スーパーでの買い物など戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、水族館やブドウ狩り、寿司等の外食で普段は行けないような場所でも、出かけられるように支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自社の方針により所持させることは出来ないが、欲しい物や使いたい物があれば、直ぐに対応できるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿って、支援を行なっている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた生け花を飾る、行事等の写真を掲示する、入居者の要望に応じて温度調節をするなど、居心地良く過ごせるよう工夫している。	一人になったり、談笑ができるように椅子やテーブルが用意され、季節毎の飾りつけや生け花、季節毎の行事参加の写真の掲示等が行われ、本人が居心地良く過ごせるよう工夫をしている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の居場所を確保すると共に、自由に行動が出来るよう、極力制限をしないように見守りやさりげない付き添いをし、工夫をしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が愛用していた物や使い慣れたもの、好みの物を居室に置くなどして居心地良く過ごせるようにしている。	居室には、家具や寝具、仏壇や家族の写真等使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備をし、安全な中で独りでも行動できるように配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190500389		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンターもみじ台(2Fふきのとう)		
所在地	北海道札幌市厚別区もみじ台北6丁目1番8号		
自己評価作成日	平成24年2月29日	評価結果市町村受理日	平成24年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着と言われていた中で地域差があり、なかなか地域の方々との交流を図ることが困難ではありますが、地域包括支援センターの協力を得ながら地域住民にご理解・ご協力をお願いしています。
ご入居者様にはここで最期を迎えると思えるケアを医療のご協力を得て積極的に取り組んでいます。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0190500389&SCD=320
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年3月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をつくり、朝礼・夕礼時やホーム会議で確認しながら実践している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天候の良い時に散歩、外出を提案している。又、地域ボランティア(大正琴等)の受け入れや地域で行われる行事に少しずつ参加し、交流を深めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隔月に行われる運営推進会議の委員の中に地域の方が参加している為、事業所の情報等を地域の方に伝わるようアナウンスしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の会議に区の方、地域の方、ご家族、入居者様、職員が参加し、現状等を具体的に話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者や包括支援センターとの連携をとり、協力関係を築くよう努めている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム会議、研修等で知識・情報の共有をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	当社のマニュアルを活用し、スタッフ研修等で周知し防止に努めている。少しの外傷等も見逃さずに申し送り・介護記録記入にて周知し、注意を払い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自社で行っているスタッフ研修で当社のマニュアルから学び、それらを活用できるように支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結・解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・改定の際には、ご家族に丁寧に説明し、理解・納得を得るように努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時にご意見・ご要望を聞いたり、家族会の内容をホーム会議などに諮り、それらを運営に反映させるように努めている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中や毎月のホーム会議等でスタッフの意見や提案を聞き、運営に反映できるよう努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組織が大きく、沢山の拠点があるため、代表者は個々の職員の状況を把握し切れていない可能性がある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	組織が大きく、代表者は個々の職員の状況を把握し切れていない可能性がある。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の管理者会議で幾らかの交流があり、サービスの質を向上させるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回のアセスメントで十分な情報を得、随時ご本人の要望・不安を確認し、汲み取るように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回アセスメントで情報を得、ご家族の要望や意向を汲み取るように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	来訪時等に情報収集に努め、ご本人・ご家族等が「今」必要としている事を汲み取るように努めている。サービス担当者会議を活用している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常生活の中でご本人の出来ることを見極めて家事等に協力しあえるよう働きかけている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に日々の生活状況を伝え、出来る限り介入して頂けるよう相談や要請をしたりして働きかけている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々のご本人、ご家族との会話の中から情報の収集をして、関係が途切れることのないように支援しています。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士での共同作業を取り入れたり、難聴の方は孤立しがちなため、スタッフが介入し他者との関わりが持てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のご家族からにその後の状況を伺い、必要時には相談に乗るなど支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りご本人の希望・意向に沿えるよう、日々の会話から汲み取るようにし、困難な場合はスタッフから情報収集し、本人本位に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話から情報を得たり、ご家族や親族・友人などからも情報を得るように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日をどのように過したいかを傾聴し、情報の共有に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を聴き、カンファレンスやモニタリングを通して全スタッフや担当スタッフがアイデアを出し、より良く暮らせるように介護計画を作成しケアに反映している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや観察の様子を申し送り時等に話し、介護記録等に記入するよう促し、常に情報を共有しながら介護計画の見直しに活かすよう努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	センター方式を活用しながら情報収集を行い、一人ひとりのニーズに対応できるよう取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医となっている。また、医療連携体制があり、適切な医療が受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活で気付いた事や情報を訪問看護師に伝え、適切な看護を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはまめに足を運び情報収集をしている。退院後も定期的に情報交換をし病院関係者との関係作りに努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は早期にご家族・医療連携医と話し合い、連携を取りながら方針を共有するように取り組んでいる。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習会に参加したり、ホーム会議等でシュミレーションをする等、基本的な訓練を行っているが、定期的な訓練は行っていない。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実際の避難訓練は年2回実施している。極力、ご近所へのアナウンスを行い、地域との関係性を築くよう努めている。スプリンクラーや通報装置があり、定期点検もされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ研修での接遇マナーで学び実践するように努めている。また、人生の大先輩ですので言葉使いや対応には気を配っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人が自己決定しやすい言葉掛けを心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人一人ひとりの希望や声を聞き、その方のペースを大切にしながら希望に沿えるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人、ご家族の希望・意向を聞き、訪問美容を受けたり、髪をカラーでセットしたりして、その人らしいおしゃれが出来るように支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に声掛けし、食事の準備や後片付け等をスタッフと一緒にやっている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	発熱時には水分量を多くし、食欲が無いときには食べられる物を確認して提供するなど、体調・状態などに応じた支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き後は必ず口腔内を確認し、磨き残しがないかを確認する。状況によっては歯科に受診するなどしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックで排泄のパターンを把握し、オムツは必要最低限とし、トイレで排泄できるよう支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に気を付け、適度な運動への働きかけを行っている。改善が見られない時には医師に相談し、整腸剤等で排便コントロールを行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の日程や時間を週2回程度は確保しながらスタッフの一存で決めず、ご本人の意向にも合わせて対応している。また、拒否の強い入居者には声掛け等を工夫し支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠の確保のため、日中には極力動いて頂くように意識している。また、日中でも休息が必要な方には長時間の臥床とならないよう配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬を理解し、必ず確認している。また、臨時薬や内服薬に変更があった場合には、変化に気付けるように周知している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話等を通しご本人の興味のあるものを探し、ご本人の意向に沿って支援するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	積雪や悪天候等でなければ、ご本人の希望に沿って散歩や近隣のスーパーでの買い物等に出掛けられるように支援している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自社の方針により所持させることは出来ないが、欲しい物や使いたい物があれば、直ぐに対応できるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿って、支援を行なっている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた生け花を飾る、行事等の写真を掲示する、入居者の要望に応じて温度調節をするなど、居心地良く過ごせるよう配慮している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の居場所を確保すると共に、自由に行動が出来るよう、極力制限をしないように見守りやさりげない付き添いをし、工夫をしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が愛用していた物や使い慣れたもの・好みの物を居室に置くなどして居心地良く過ごせるようにしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備をし、安全な中で独りでも行動できるように配慮している。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	立ち上げ時から地域に溶け込むことが困難だった	地域住民が自由に出入りできるホーム作り	地域代表の方々にまずは認知症の理解を呼びかけてご理解をいただき、次に地域住民にご理解をいただけるよう地域の行事等に参加する。	12ヶ月
2	13	組織が大きいため信頼・安心はできるが、規制が多いため新しいアイデアなどを取り入れることがなかなかできない。	スタッフ一人ひとりが入居者様の思いを尊重した支援を行なえるようになる	研修等を通して当社担当課と取り組み、理解を得て、決裁をいただけるように取り組む。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。